

穴をあけて綴じてください

## 六郷の総鎮守



# 六郷神社崇敬会会報

2

平成2年5月発行



東側より見た権現造りの拝殿

六郷神社例大祭の儀式は毎年六月三日に行われておりますが、ことしは特別に六月一日午前十一時より総代、祭典委員が参列して厳粛に執り行われ、祭礼は二日、三日に決定、神幸祭は三日に挙行されることになりました。

宮神輿は三日午前八時三十分に宮出し、氏子青年会のメンバーを中心に担がれ、宮本、伸四、高畑、西一、西一、伸一、伸二、仲三、東二、南二、南三、東三（四頁参照）の順に渡御し、午後四時三十分宮入りの予定です。

神幸祭の列次は次のとおりです。

### 神幸祭列次

杖長	長職	旗彥	鼓職	箱榊	旗職	長櫛	扇職	長	長	長	乗	丁職
員員	司(白)	司(白)										
委委	委委	神	神	唐	神	部	部	部	部	部	騎	神
行副	行副	幸田	神	神	唐	神	委	團	行	副	行	副
執行	執行	麻	錢	色	委	團	行	執	輿	輿	執	輿
典典	典典	行	饌	儀	執	輿	行	典	典	典	典	典
執導	執導	祭	饌	儀	執	輿	行	神	神	神	神	神
鐵祭	祭先	猿	太	賽	真	五	前	大	神	大	典	祭
朱	神	太	大	前	大	神	大	神	大	神	大	祭
後	神	大	太	真	五	前	大	神	大	神	大	祭

### 宮 神 輿

傘衛	傘衛	丁職
宮朱後	宮朱後	丁職

神獅子は二日、三日の両日にわたつて各町内会を巡行し、御酒所において演舞（雨天の場合は巡行中止）。なお、二日は午後二時三十分と五時四十分から、三日は午後五時から、神楽殿において舞いを奉納いたします。

## 「神獅子」 少年少女24名が奉仕

数百年の長い伝統をもつ六郷神社の獅子舞は、百獸の王たる獅子の威勢が悪疫災禍をはらい、人びとに平安と幸福をもたらすという信仰にささえられてきたもので、「神獅子」と称されており、貴重な無形民俗文化財といわなければなりません。

舞いの形式は「雌獅子がくし」といわれるもので、少女が奉仕するのは全国でも例が少なく、大きな特色となっています。すなわち少年三名が雌獅子、中獅子、雄獅子に扮し、美しい花笠をかぶつた少女二名がササラ役をつとめて舞いが展開されます。もう一つの特色は、昔から神事舞（お祭りの儀式の一種として行われる舞い）としての伝統を守っているため、その演舞がお祭りの日に限られています。

**六月一日、二日の祭礼当日、拝殿左手に敬会の詰所を設けます。ご参拝の折にお立ち寄りください。会費の払い込み、新入会員の受け付けもいたします。**

年少女二十四名が、四月三十日から毎晩神社で世話方の特訓をうけ、ひたすら練習にはげんで参りました。

四町会を行列をつくつて練り歩き、各町内会の御酒所で、元気いっぱい演舞します。どうか伝統をうけつぐ健気な少年少女に、盛んな拍手を送ってください。



ることです。

へ太鼓の胴をきりりと締めてササラをしゃんとすり上げさような三頭の輪舞は勇壮活発で、笛の旋律は美しく変化に富んでいます。

源頼朝が寄進したもの

と伝えられます。

ことしも、有志の少

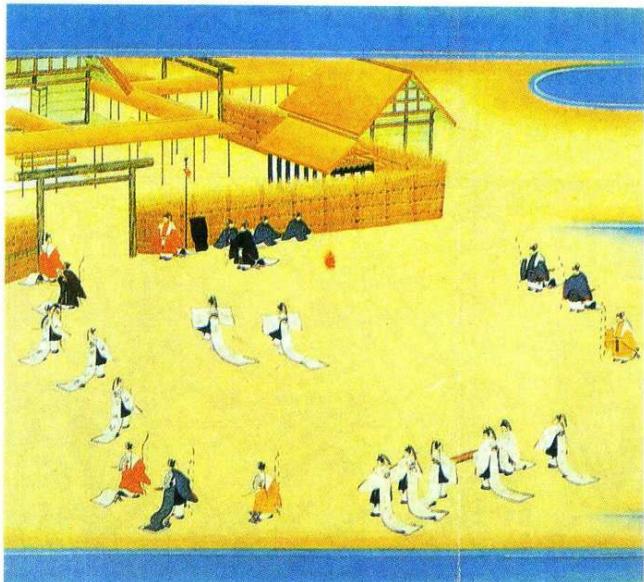
少女が奉仕するのは全国でも例が少なく、大きな特色となっています。すなわち少年三名が雌獅子、中獅子、雄獅子に扮し、美しい花笠をかぶつた少女二名がササラ役をつとめて舞いが展開されます。もう一つの特色は、昔から神事舞（お祭りの儀式の一種として行われる舞い）としての伝統を守っているため、その演舞がお祭りの日に限られています。

【個人の部】		古沢 実	森田拓治
南一	山本 覚	川田艶子	佐藤昇二
南二	住本 隆	今村貴好	福岡昭一
南三	小保方正明	栗田卯三郎	栗田卯三郎
日下喜造	森 政吉	秋野安伸	石橋善次郎
大泉甚五郎	小野ヨシイ	川田龍之介	高谷懸敬
森 佐喜次	小泉鶴吉	高橋昭夫	高橋善次郎
片山巳春	小泉澄雄	板垣勝二	芦沢 基
森 佐喜次	塩畠羨	小泉清文	宮川 理
三尾勝治	佐喜次	高橋勝	助川勝弥
南三	田畑 寛	見林芳三	堀口君代
東一	小泉 隆	青木 実	岡山美代
豊島年蔵	沢田一郎	藤野美知子	藤原幹夫
長谷川和男	木村太郎	田中秀次	福原幹夫
浅利けさせ代	加藤 勇	中村ふじ	和賀 昭
伊藤 勇	飯塚豊次郎	木村太郎	藤原巖
佐藤美知子	神部 守	染谷直志	福原幹夫
米永梅夫	加藤 勇	酒井衆司	和賀 昭
青木 真	平野保和	村形直吉	藤原巖
加藤敏男	村形直吉	染谷直志	福原幹夫
		酒井衆司	和賀 昭

自平成元年十一月四日  
至平成二年三月三十一日

## 新入会員名簿

## 大嘗祭について



大嘗祭は即位の礼に引き続き行われます

新しい天皇の「御大礼」の諸儀式の中で、その中心となるのが、十一月十二日の即位礼と十一月二十二日から二十三日にかけて挙行される大嘗祭です。即位礼は、天皇の御位につかれたことを、正式に広く国民及び諸外国に宣言し、内外の賓客からの祝意をお受けになられる儀式です。大嘗祭は、天皇が即位の後初めて行われる儀式で、稻の初穂を皇祖神にお供えして共に聞き食すという新嘗祭に同

じ内容のお祭りを、御一代に一度の大祭として行うものです。

例年的新嘗祭と異なるのは、大嘗祭にお供えする新穀を作る悠紀田、主基田という特別の斎田を選定することから始まる点で、すでに悠紀田は秋田県、主基田は大分県に選定されました。また祭場となる悠紀殿、主基殿が皇居内に造営されます。古代そのままの工法で建てられる清楚な宮殿で、祭前七日に起工し、三日前までに完成、と平安時代の儀式書にも記されています。黒木造りといつて、皮のついたままの木材を柱や棟とし、壁や扉は藺草を編んだ近江表を張つたもので、床は竹で筵と近江表を敷き、屋根は茅葺きといわれます。

大嘗祭の当日、天皇は悠紀殿、主基殿それぞれの宮殿で同じように新穀を神に献じ、自らも召し上がられます。日の沈む午後六時から翌日の明け方近くまで、夜を徹して行われる厳粛なお祭りです。

天皇は即位するに当たり、このお祭りによってはじめて眞の意味での天皇になる資格を得られるとされております。

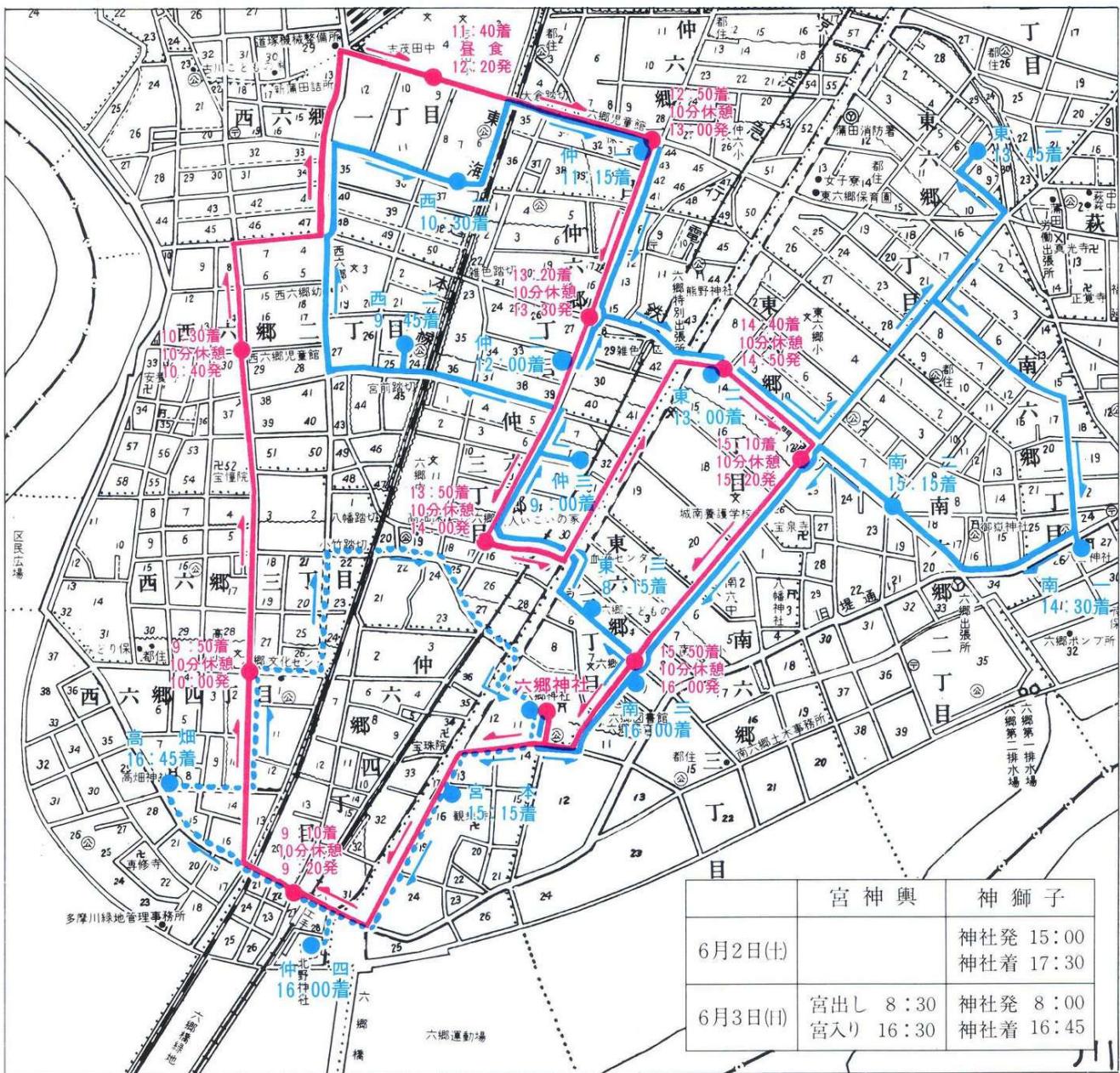
御大礼の一連の祭儀を、国民こぞつて奉祝したいものです。(宮司・鈴木武司)

高橋昭治	西一	近藤えい子	稻見正子	世田谷区
木村正義	西二	市川昂	桑原静	北島秀一
市川	蓮見章	石渡啓子	石山雄一	森田慎藏
西三	北野明男	須山富美男	菅谷藤一郎	東大和市
西四	金輪将利	石渡良太郎	高橋貞次	川崎市
鶴川屋実	羽田	平林勝三郎	平林啓吾	横浜市
横山兼次	堀米一政	上田格一	望月堅吉	横須賀市
村石半四郎	萩中	名取憲彦	竹内廣子	市川緋佐磨
鈴木正明	堀 鐵雄	白土長吉	代田富夫	南埼玉郡
北野明男	真田欽也	大森西	藤沢市	秋山数馬
新蒲田	品川区	宮武義典	平林勝三郎	石井隆晋
西一	南六郷	仲六郷	坂本茂信	中央区
近藤えい子	(有)アボロ塗装所	京浜興業(資)	河津建設	東矢口
稻見正子	(株)和幸製作所	(有)宮田組	株河津建設	世田谷区
北島秀一	六郷鑄物工場	芝信用金庫雜色支店	株福原商店	高橋昭治
森田慎藏	富士熱処理(株)	六郷地区外	株河津建設	西一
東大和市	今村電機工業(株)	仲六郷	(有)エンゼル教材社	近藤えい子
川崎市	丸金産業(株)	南六郷	(有)アボロ塗装所	稻見正子
横浜市	共栄堂	品川区	(株)和幸製作所	北島秀一
横須賀市	六郷鑄物工場	大森西	六郷地区外	森田慎藏
市川緋佐磨	富士熱処理(株)	宮武義典	仲六郷	東矢口
南埼玉郡	今村電機工業(株)	大森西	南六郷	高橋昭治
秋山数馬	丸金産業(株)	宮武義典	品川区	西一
石井隆晋	共栄堂	仲六郷	大森西	近藤えい子
坂本茂信	六郷鑄物工場	南六郷	宮武義典	稻見正子
河津建設	富士熱処理(株)	品川区	大森西	北島秀一
(地区別・順不同)	(有)エンゼル教材社	大森西	宮武義典	森田慎藏

# 神輿渡御及び神獅子巡行コース

----- 6月3日の神輿渡御コース ----- 6月2日の神獅子コース

----- 6月3日の神獅子コース ----- ※記入の数字は予定時刻です。



★第一回定期総会は五月十三日午後一時より社務所で開催されます。  
★京都の石清水八幡宮への本会創立奉告の参拝旅行を、十月九、十、十一日（二泊三日）に行う予定です。詳細は後日お知らせします。

「茅の輪くぐり」に  
お出かけください  
水無月の夏越の祓する人は  
千歳のいのちのぶといふなり  
六月三十日の大祓は、私たちが  
知らず知らずに犯している半年分  
の罪や穢れを、人形に移して祓い  
清める神事ですが、その日、チガ  
ヤで作つた茅の輪をくぐつて身を  
清め、残り半年分の安泰を祈るの  
が「茅の輪くぐり」です。茅の輪  
は社殿正面の参道に設けられます。  
ぜひ、お出かけください。  
『拾遺集』

発行＝六郷神社崇敬会  
〒144 大田区東六郷三十一十八  
電話 ○三一七三二二八八九  
振替 東京九一一三五五三  
編集＝平野順治  
六郷神社社務所内

六郷神社崇敬会の御案内

六郷神社は、六郷の総鎮守として信仰され、人びとの「心のふるさと」として、つねに地域連帯の核心となり、土地発展の歴史とあゆみを共にし、さての鎮座九百二十二年祭記念御造営事業により、御社殿をはじめ社門、神楽殿などの新改築とともに、手水舎、燈籠、玉垣、敷石なども整備され、由緒ある古社にふさわしい姿となりました。

さきの鎮座九百二十二年祭記念御造営事業により、御社殿をはじめ末社、神門、神楽殿などの新改築とともに、手水舎、燈籠、玉垣、敷石なども整備され、人びとの間から、いよいよ神社の興隆を祈り敬神の念を深めるためにも、神社とのコミュニケーションを一層密にして、お互いの親睦をはかり、神社を中心とした文化活動によつて地域社会に尽そうではないか、という声が強く上がつて参りました。

平成元年十一月三日、文化の日を期して結成された六郷神社崇敬会は、このよつた自觉的、積極的な崇敬者の声を、実行に移すことを目的として、この事業を奉賛された人びとの間から、いよいよ神社の興隆を願とし、たと連帶の会であります。御賛同の方の一人でも多い御入会を、お願い申しあげます。

六郷神社 崇敬会 田賢治 会長 森田 鈴木 司宮 武司

六郷神社は、六郷の総鎮守として信仰され、人びとの「心のふるさと」として、つねに地域連帯の核心となり、土地発展の歴史とあゆみを共にし、さての鎮座九百二十二年祭記念御造営事業により、御社殿をはじめ末社、神門、神楽殿などの新改築とともに、手水舎、燈籠、玉垣、敷石なども整備され、人びとの間から、いよいよ神社の興隆を祈り敬神の念を深めるためにも、神社とのコミュニケーションを一層密にして、お互いの親睦をはかり、神社を中心とした文化活動によつて地域社会に尽そうではないか、という声が強く上がつて参りました。

平成元年十一月三日、文化の日を期して結成された六郷神社崇敬会は、このよつた自觉的、積極的な崇敬者の声を、実行に移すことを目的として、この事業を奉賛された人びとの間から、いよいよ神社の興隆を願とし、たと連帶の会であります。御賛同の方の一人でも多い御入会を、お願い申しあげます。

六郷神社 崇敬会 田賢治 会長 森田 鈴木 司宮 武司

※御入会は、どなたでもできます。御家族をはじめ、お知り合いの方々にも、おすすめください。追加の申込書は六郷神社社務所に備え付けてあります。

※御入会は、振替用紙が申込書となりますが、六郷神社社務所へ直接お申し込みの場合振替番号は、東京9-1-13553(六郷神社崇敬会)です。

入の上、お近くの郵便局から年会費(法人三千円)をお納めください。

※御入会の手続きは、振替用紙の裏面にも、住所、氏名、電話番号などを御記入の上、お近くの郵便局から年会費(法人三千円)をお納めください。

も、お手数ながら御記入ください。